

2016年度 CSIS 共同研究

No. 685

# 都市の規模と立地からみた人口の都心回帰現象の 出現状況に関する研究

## 報告書

2016年04月

### 研究代表者

島根大学 法文学部/准教授/菊池 慶之

### CSIS教員

瀬戸 寿一

平成 29 年 4 月 21 日

CSIS 共同研究報告書

No. 685 都市の規模と立地からみた人口の都心回帰現象の出現状況に関する研究

研究代表者：菊池 慶之（島根大学法文学部）

研究内容：

本研究は日本の主要な都市地域における人口分布の変化から、都市の規模や立地による人口の都心回帰現象の出現状況の差異を検討するものである。また人口の分布変化と合わせて、事業所の立地動態、都心と郊外との地価の推移を検討することにより、人口の都心回帰現象を促進する条件を明らかにすることを旨とする。

2016 年度は全国的な調査に先立ち、山陰地域の 7 都市（鳥取、米子、倉吉、松江、浜田、出雲、益田）における都市内での人口分布の変化、事業所立地の動態などを分析し、都心回帰現象に関する調査手法を検討した。この結果、山陰地域の都市では明確な都心回帰の傾向は見いだせないものの、2000 年代以降、郊外地域の成長が止まったことにより中心地域、郊外地域のいずれもが衰退する逆都市化段階に入ったとみなすことが出来る。また、調査対象都市では、事業所立地が人口分布よりも先に立地変化する傾向にあることから、地方中小都市の都市空間変動を見通す上で事業所立地がより重要な意味を持つことが示唆される（菊池・李 2017）。

CSIS 利用データセット：

国勢調査地域メッシュ統計

事業所・企業統計調査 地域メッシュ統計

菊池慶之, 李阿敏(2017) 山陰地域における都市空間変動とマンション立地—再都市化現象の出現可能性に関する考察, 日本地理学会発表要旨集 No. 91: 334.